

2024. 5. 14

TOYOBO
Beyond Horizons

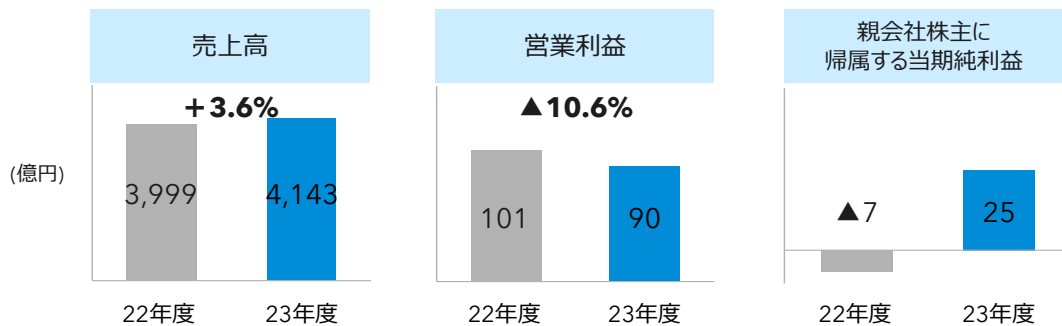
2023年度決算説明

東洋紡株式会社
代表取締役社長
竹内 郁夫

皆さんこんにちは。東洋紡社長の竹内でございます。本日は、弊社の決算説明会にご参加いただき、誠にありがとうございます。また、平素は弊社をお引き立ていただいておりますこと、重ねて御礼申し上げます。それでは、資料に従いまして、説明申し上げます。

2024年3月期 通期実績

液晶偏光子保護フィルムは販売を伸ばすも、PCR検査用試薬の需要減や包装用フィルムの数量減により、増収減益。当期純利益は 25 億円



2025年3月期 通期予想

包装用フィルム、電子材料の需要回復に加え、要改善事業の対策を進めることにより、営業利益 170 億円、当期純利益は 26 億円を予想

決算のポイントでございます。2023年度の業績につきましては、増収減益となりました。液晶偏光子保護フィルムは、世界シェアが約60%ですが、販売が好調でした。しかしながら、PCR検査用試薬は、新型コロナウイルス感染症の特需がなくなり、大きく落ち込みました。加えて、包装用フィルムは、価格転嫁を進めましたが、数量を大きく落としました。

営業利益は減益となりましたが、経常利益は、為替差益の計上により営業外損益が改善し、増益となりました。親会社株主に帰属する当期純利益については、投資有価証券売却益の計上もあり、直近の予想を上回り、25億円となりました。

3ページに四半期ごとの営業利益の推移をお示ししていますが、営業利益は、4Qに明確な改善が見られました。なお、2022年度上期については、先ほど需要が落ち込んだと申し上げたPCR検査用試薬が貢献しています。そのため、実質的には、2022年度を上回る水準にまで、この4Qで回復してきたということです。

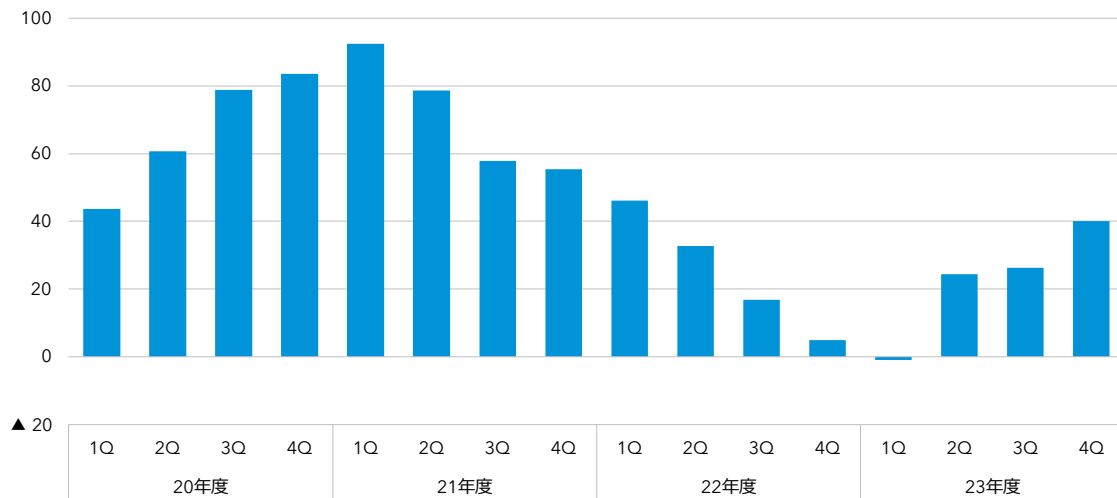
以上を踏まえて2024年度の予想でございます。包装用フィルムは、在庫調整がようやく終わり、数量が回復傾向にあります。また、電子材料用途の機能樹脂やセラコン用離型フィルムの需要回復も、特に年度後半には期待できます。更に、要改善事業への対策を進めることにより、営業利益は170億

円を予想します。親会社株主に帰属する当期純利益については、営業外損益や特別損益の悪化を見込むため、微増の26億円にとどまる予想です。配当については、安定配当方針のもと、業績を回復させることを見込み、40円を予定しています。

(参考) 四半期別営業利益推移

TOYOBO

(億円)



2023年度の事業環境（当初想定との差異）

TOYOBO

セグメント	事業	当初想定（2023年5月時点）	現状（2023年度）	
			対想定*	当初想定との差異
フィルム	包装用	流通在庫の調整が段階的に解消	▲	在庫調整の長期化で需要回復遅れ
	工業用	液晶偏光子保護フィルムは需要堅調	○	強い需要あり
		MLCCは下期から本格的な需要回復	▲	本格的な需要回復には至らず
ライフサイエンス	バイオ	PCR検査用試薬の需要大幅減	▲	5類感染症移行により、需要は激減
	メディカル	人工腎臓用中空糸膜は需要堅調	○	堅調に推移
環境・機能材	樹脂・ケミカル	自動車生産の回復（半導体不足の解消）	-	-
		電子材料用途（中国・アジア）の需要回復	▲	需要回復遅れ
	環境・ファイバー	VOC回収装置は需要堅調	○	受注は堅調
		不織布マテリアルは競争激化	▲	事業環境の競争激化（衛材、土木）
機能繊維・商事	エアバッグ	自動車生産の回復（半導体不足の解消）	-	-
共通		原燃料価格高騰の影響残る	-	-

*当初想定に対し、○：改善・拡大、-：想定通り、▲：悪化・減少

4

2023年度の事業環境を振り返ります。

期初は営業利益150億円を目標として掲げておりました。それに対し、90億円であり、大幅な未達となりました。

▲でお示ししている事業は、期初の想定より事業環境が悪化しました。包装用フィルムは、当初は、2023年度上期に在庫調整が終わると見通していましたが、年度末まで時間を要しました。セラコン用離型フィルムは、ミドルエンドの数量は回復しましたが、ハイエンドは回復に至りませんでした。また、樹脂・ケミカルは、中国市場の停滞の影響を受けました。不織布マテリアルは、中国からのデフレ圧力により価格競争が激化しました。これらの要因に対し、自助努力できる部分もありますが、環境変化を打ち返せなかったということです。

決算サマリー | PL

TOYOBO

(億円)

	21年度	22年度	23年度	増減		直近予想 (24/02)
				金額	率	
売上高	3,757	3,999	4,143	+143	+3.6%	4,100
売上総利益	961	850	880	+30	+3.5%	-
営業利益	284	101	90	▲ 11	▲ 10.6%	80
(率)	7.6%	2.5%	2.2%	-	-	2.0%
経常利益	231	66	70	+4	+5.6%	50
特別損益	▲ 83	▲ 60	▲ 14	+46	-	▲ 8
親会社株主に帰属する当期純利益	129	▲ 7	25	+31	-	10
EBITDA* <small>* 営業利益 + 減価償却費 (のれんを含む)</small>	485	291	288	▲ 3	▲ 1.1%	280
EPS (円)	144.8	▲ 7.4	27.9	-	-	11.4
ROE* <small>* 当期純利益 ÷ 期首・期末平均自己資本</small>	6.8%	-	1.3%	-	-	-
ROIC* <small>* NOPAT ÷ (有利子負債 + 純資産)</small>	5.1%	1.7%	1.3%	-	-	-

■ 配当は、一株あたり 40 円 (予定)

5

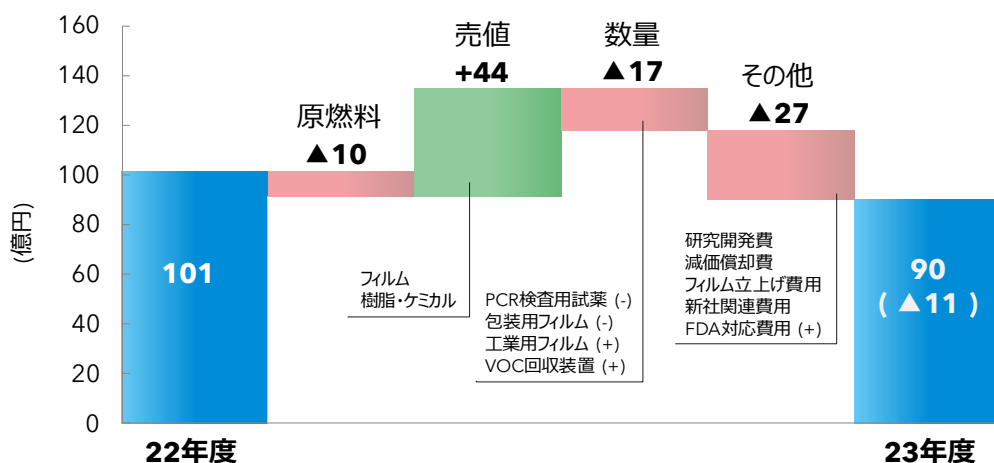
決算サマリー、PLでございます。

営業利益は10%の減益となりました。売上総利益は増益しておりますので、販管費が増えたということです。

販管費は、昨年度対比で41億円の増加となりました。ここ数年、安全・防災、品質の守りの費用と、攻めの費用とともに経費が増えており、41億円の約7割は、販売試験費の増加や、東洋紡エムシー（株）の設立に伴う費用です。約3割は、安全・防災、品質や研究開発費です。

EBITDAは、減価償却費の増加に伴い、微減にとどまりました。

営業利益の増減要因



	21年度	22年度			23年度		
	通期	上	下	通期	上	下	通期
為替レート (円/US\$)	112	134	137	135	141	148	145
国産ナフサ (千円/kl)	57	84	70	77	65	73	69

営業利益の増減要因です。原燃料因は、国産ナフサ価格の影響を大きく受ける要素です。2022年度と2023年度の平均国産ナフサ価格を比較すると、下落しており、原料部分については増益効果がありましたが、石炭についてはタイムラグがあり、影響を受けました。タイムラグは、約半年のため、石炭価格の下落と安定化のメリットは、2024年度にもたらされる見通しです。

売値因は、単年度で見れば、原燃料因の転嫁が進んでおりますが、過年度3年分の見直しを現在も進行中です。26ページに、過年度の原燃料因と売値因の推移をお示ししていますが、過年度3年分の実績を踏まえすと、現時点では7割程度の転嫁にとどまっているため、引き続き価格転嫁は課題と認識しています。

数量因は、PCR検査用試薬や包装用フィルムが減少した一方で、工業用フィルムの“コスモシャインSRF”や、リチウムイオン電池セパレータ製造工程で使用されるVOC回収装置は増加しました。差し引きでは、特にPCR検査用試薬の落ち込みが大きかったため、▲17億円となりました。

その他因は、販管費の増加がありました。

決算サマリー | BS

TOYOBO

	(B)		(A)	(億円)
	22/3末	23/3末	24/3末	増減 (A)-(B)
総資産	5,178	5,889	6,070	+181
現預金	272	607	338	▲ 269
棚卸資産	960	1,219	1,220	+1
有形固定資産	2,276	2,402	2,815	+412
純資産	1,971	2,214	2,301	+87
自己資本	1,949	1,896	1,970	+74
うち利益剰余金	747	705	703	▲ 2
非支配株主持分	23	318	331	+12
有利子負債	1,912	2,294	2,492	+198
D/E レシオ	0.98	1.21	1.26	-
Net Debt / EBITDA倍率*	3.4	5.8	7.5	-

* (有利子負債 - 現預金) <期末> / EBITDA

7

決算サマリー、BSでございます。総資産が増加しておりますが、主な要因は有形固定資産および棚卸資産の増加です。具体的には、今後の成長が期待できる分野である、セラコン用離型フィルムの新機台、バイオ工場のリニューアル、人工腎臓用中空糸膜の一貫生産工場の固定資産が増えました。また、老朽化している設備のリニューアル投資も進めました。棚卸資産は、在庫調整の影響により数量が一部で増えていることに加え、単価の上昇の影響もあります。棚卸資産回転月数が4か月を超えているため、圧縮が必要と認識しています。

固定資産の増加に対する資金を、現預金および有利子負債で賄ったということで、結果的に財務体質は悪化しました。

決算サマリー | CFほか

TOYOBO

	(億円)		
	22年度	23年度	増減
営業活動によるキャッシュ・フロー	78	216	+138
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲ 360	▲ 588	▲ 228
フリー・キャッシュ・フロー	▲ 282	▲ 372	▲ 90
財務活動によるキャッシュ・フロー	613	83	▲ 530
その他	7	20	+13
現金及び現金同等物の増減額	338	▲ 269	▲ 607
現金及び現金同等物の期末残高	602	333	▲ 269
減価償却費	190	198	+8
設備投資	427	616	+188
研究開発費	141	153	+12

■ 設備投資 セラコン用離型フィルム新機台、バイオ工場リニューアル、医用膜一貫生産工場

8

決算サマリー、CFでございます。営業キャッシュ・フローを上回る投資をすることは、もともと中期経営計画に織り込んでおりますが、営業キャッシュ・フローの落ち込みに伴い、フリー・キャッシュ・フローの赤字が拡大しました。

決算サマリー | セグメント別

TOYOBO

	売上高		営業利益			直近予想 (24/02)
	22年度	23年度	22年度	23年度	増減	
フィルム	1,461	1,565	16	27	+11	30
ライフサイエンス	381	346	92	44	▲ 48	45
環境・機能材	1,108	1,153	40	47	+6	40
機能繊維・商事	924	957	▲ 25	▲ 10	+15	▲ 12
不動産・その他	126	122	22	30	+8	25
消去・全社	-	-	▲ 45	▲ 48	▲ 3	▲ 48
合計	3,999	4,143	101	90	▲ 11	80

9

セグメント別でございます。昨年度と比較いたしますと、ライフサイエンスの落ち込みを他セグメントで補うことができませんでした。

期初の営業利益計画150億円の内訳では、フィルムは、営業利益88億円を計画していましたが、27億円と大幅な未達でした。健闘したのは機能繊維・商事で、衣料繊維の黒字化を達成し、エアバッグ用基布の赤字幅が縮小しました。

(参考) 四半期別営業利益推移 (セグメント別)

TOYOBO

(億円)

	22年度				23年度			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
フィルム	25	▲ 0	▲ 4	▲ 4	12	2	1	12
ライフサイエンス	21	33	26	12	14	10	11	10
環境・機能材	9	12	8	11	▲ 7	10	26	17
機能繊維・商事	▲ 4	▲ 7	▲ 7	▲ 7	▲ 7	▲ 1	▲ 7	5
不動産・その他	3	6	7	5	4	10	7	9
消去・全社	▲ 9	▲ 11	▲ 13	▲ 13	▲ 17	▲ 7	▲ 12	▲ 12
合計	46	33	17	5	▲ 1	24	26	40

10

四半期別営業利益の推移をセグメント別でお示しいたします。環境・機能材は、3Qに前倒し受注の影響がありましたが、全体としては、4Qにかけて順調に回復基調にあるということです。

事業別 主なアクションプランと結果（2023年度）

TOYOBO

セグメント	アクション（2023年5月時点での計画）	結果*
フィルム	■収益の柱。収益回復 ・包装用フィルム：一層の価格改定によるマージン改善。新機台・新製品の本格立上げ ・セラコン用離型フィルム：市況回復に合わせ、顧客の増産体制に対応。 新機台建設 ・液晶偏光子保護フィルム：顧客の増産体制に対応。価格改定	▲ ○ ○
ライフサイエンス	■ポストコロナ収益減の挽回と成長策実行 ・バイオ：PCR検査用試薬は売上減少も、海外向け原料酵素拡販。 リニューアル増産投資 ・メディカル：人工腎臓用中空糸膜は、 需要増への対応と一貫生産工場建設 急性血液浄化市場、抗体医薬製造プロセス市場へ上市・新商品投入 ・医薬品製造受託： FDA・WL対応・GMP体制 。販売回復と収益性改善	○ ○ ▲ ○
環境・機能材	■東洋紡エムシー（株）：立上げ（機能別組織他）。変革プランの実行 ・環境ソリューション： LIBS向けVOC回収装置の海外加速 。FO・BC膜の新用途立上げ ・工業用接着剤：一層の価格改定と数量回復。エレクトロニクス向けの 新製品開発 ・エンジニアリングプラスチック：品質保証体制の確立。一層の価格改定と数量回復	○ ▲ ○
機能繊維・商事	■要改善事業の対策実行 ・エアバッグ用基布：収益性改善の為に一層の価格改定を実施。 新原糸工場（タイ）の商業生産開始 ・衣料繊維：3工場の集約と海外拠点一体での事業運営による 収益性改善	○ ▲ ○

* ○：計画通り、▲：遅れ

11

事業別の主なアクションプランに対し、やるべきことができているかをお示しします。細かく記載をしておりますが、大きくまとめますと、成長分野への投資は順調に進めてまいりました。今からこれだけの投資をするのは難しいということで、今後については、成長の源泉と認識しています。また、構造改革については、衣料繊維が黒字化を達成したと申し上げましたが、富山事業所の一工場への集約を進めました。不織布マテリアルについては手を打ち始めています。安全・防災、品質関連は着実に前進しています。医薬やエンジニアリングプラスチックの品質保証事案に対しては、品質保証体制の整備をこの2年間でかなり進め、ようやく目途がたったというところでございます。

一方で大きな課題は、包装用フィルムの新機台・新製品の本格立ち上げが大幅に遅れていることです。フィルムの立上げ費用も増えました。また、エアバッグ用基布は、赤字幅は縮小できましたが、新工場への切り替えが不十分です。

フィルム

TOYOBO

(億円)

	22年度			23年度			増減		直近予想 (24/02)
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	金額	率	
売上高	743	717	1,461	781	785	1,565	+105	+7.2%	1,550
営業利益	24	▲ 8	16	14	13	27	+11	+65.6%	30
(率)	3.3%	-	1.1%	1.8%	1.6%	1.7%	-	-	1.9%

包装用フィルム

- 価格改定を進めるも、需要回復の遅れにより、荷動き低調。また、新機台の立上げ費用が嵩む

工業用フィルム

- 液晶偏光子保護フィルムは、強い需要に牽引され販売大幅増
- セラミックコンデンサ用離型フィルムは、本格的な需要回復には至らず

12

フィルムでございます。低水準ではありますが、増収増益でございました。包装用フィルムは、減収減益となりました。価格改定を進めましたが、業界の在庫調整が大幅に遅れたことにより、数量が落ち込んだ影響を受けました。また、新機台の立上げ費用も足を引っ張りました。

工業用フィルムは、増収増益となりました。液晶偏光子保護フィルム“コスモシャインSRF”は約30%増でした。セラコン用離型フィルムは、ミドルエンドは回復していますが、ハイエンドは、当初は2023年度下期からの回復を見ていたものの、できなかったため、減収となりました。

(億円)

	22年度			23年度			増減		直近予想 (24/02)
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	金額	率	
売上高	193	188	381	166	180	346	▲ 36	▲ 9.4%	340
営業利益	54	38	92	24	20	44	▲ 48	▲ 51.8%	45
(率)	28.0%	20.2%	24.2%	14.5%	11.3%	12.8%	-	-	13.2%

バイオ

- 新型コロナウイルス感染症の収束に伴い、PCR検査用試薬が大幅に減少

メディカル

- 人工腎臓用中空糸膜の販売が堅調

医薬

- 米国FDAからの Warning Letter 解除（2023年7月）を受け、収益性改善

ライフサイエンスでございます。減収減益でございました。

バイオは、大きく落ち込みました。新型コロナウイルス感染症の関連は、収束に伴い、特需が落ちましたが、海外向けの検査用試薬および試薬用原料の需要は非常に旺盛です。2024年度に工場を立ち上げ、需要に応えていきます。

メディカルは、人工腎臓用中空糸膜の販売が、国内外で非常に堅調でした。こちら、2024年度に工場が立ち上がる予定です。

医薬は、赤字幅が縮小しました。FDAから出ていたWarning Letterを解除できたことで、その対応に関わる費用が減りました。今後は、受注を再開し、収益性の改善に努めていきます。

環境・機能材（主に東洋紡エムシー（株））

TOYOBO

(億円)

	22年度			23年度			増減		直近予想 (24/02)
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	金額	率	
売上高	557	551	1,108	525	628	1,153	+45	+4.1%	1,150
営業利益	21	19	40	4	43	47	+6	+15.3%	40
(率)	3.8%	3.5%	3.7%	0.7%	6.8%	4.0%	-	-	3.5%

樹脂・ケミカル

- エンジニアリングプラスチックは、自動車生産の回復により販売増
- 工業用接着剤“バイロン”は、中国向けの電子材料用途の販売が低調

環境・ファイバー

- 環境ソリューションは、LIBS*製造工程用のVOC回収装置が販売を拡大
- 高機能ファイバーは、“イザナス”の釣糸用途が低調
- 不織布マテリアルは、衛材用途や土木・建築用途の販売減に加え、原燃料価格高騰の影響あり

*リチウムイオン電池セパレータ

14

環境・機能材は、全てではありませんが、主に東洋紡エムシー（株）です。こちらは単純比較が難しいのですが、増収増益でございました。2023年度上期は、価格転嫁の努力中であり、また新社設立に伴う費用があったため、収益は上がりませんでした。下期に向けて価格転嫁に努め、また、会社として動き始めたため、本来の業績に戻りつつあります。

樹脂・ケミカルのエンジニアリングプラスチックは、自動車生産の回復により回復しましたが、工業用接着剤“バイロン”など機能樹脂は、中国の影響を受けました。

環境・ファイバーでは、環境ソリューションは非常に堅調でしたが、不織布マテリアルは大きく打たれました。今後は、生産体制の見直しを進めてまいります。

(億円)

	22年度			23年度			増減		直近予想 (24/02)
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	金額	率	
売上高	453	470	924	457	500	957	+33	+3.6%	930
営業利益	▲ 11	▲ 14	▲ 25	▲ 9	▲ 2	▲ 10	+15	-	▲ 12
(率)	-	-	-	-	-	-	-	-	-

衣料繊維

- 国内生産拠点の集約や、不採算商材からの撤退など、事業構造改善が進む
- 製品価格の改定が進み、収益性改善

エアバッグ用基布

- 自動車生産の回復に伴い販売量が増加。製品価格の改定が進み、赤字縮小

15

機能繊維・商事でございます。増収、赤字幅縮小による増益でございます。

衣料繊維は、黒字転換となりました。国内の3工場を1工場に集約し、不採算商材からの撤退を進めました。また、当社の強みの1つである、中東向けトープ地が堅調でした。しかし、これで十分ではなく、収益性を高めるべく、事業構造改善をさらに進めていきます。

エアバッグ用基布は、価格転嫁を進め、赤字幅が縮小しました。しかし、十分な採算性の改善には至っておらず、引き続き、体制を含めた見直しを進めていきます。

2024年度の事業環境見通し

TOYOBO

セグメント	事業	前年度の状況（2023年度）	見通し（2024年度）
フィルム	包装用	在庫調整の長期化で需要回復遅れ	在庫調整終え、緩やかに回復へ
	工業用	液晶偏光子保護フィルムは強い需要あり	前年度並みの需要
MLCCIは本格的な需要回復には至らず		年度後半から回復	
ライフサイエンス	バイオ	5類感染症移行により、PCR検査の需要は激減	生化学診断薬用酵素は需要堅調
	メディカル	人工腎臓用中空糸膜は堅調に推移	堅調に推移
環境・機能材	樹脂・ケミカル	自動車生産の回復（半導体不足の解消）	堅調に推移
		電子材料用途（中国・アジア）の需要回復遅れ	需要回復
	環境・ファイバー	VOC回収装置の受注は堅調	需要堅調
		不織布マテリアルは競争激化（衛材、土木）	厳しい競争環境は継続
機能繊維・商事	エアバッグ	自動車生産の回復（半導体不足の解消）	堅調に推移
共通		原燃料価格高騰の影響残る	国産ナフサは高止まり、石炭価格は落ち着く

16

2024年度の事業環境見通しでございます。全体として、数量の回復が続くと見えています。ただし、不織布マテリアルは、厳しい競争環境が継続する見通しです。

石炭価格は落ち着く見通しです。全体として2023年度に比べると、2024年度は事業環境が好転すると見込んでいます。

2024年度 業績見通し

TOYOBO

包装用フィルム、電子材料の需要回復に加え、要改善事業の対策を進めることにより、
営業利益 170 億円、当期純利益は 26 億円を予想 (億円)

	23年度	24年度	増減	
	実績	見通し	金額	率
売上高	4,143	4,350	+207	+5.0%
営業利益	90	170	+80	+89.0%
(率)	2.2%	3.9%	-	-
経常利益	70	115	+45	+65.2%
特別損益	▲ 14	▲ 38	▲ 24	-
親会社株主に帰属する当期純利益	25	26	+1	+5.9%
EBITDA	288	405	+117	+40.6%
EPS (円)	27.9	29.5	-	-
減価償却費	198	235	+37	+18.6%
設備投資	616	500	▲ 116	▲ 18.8%
研究開発費	153	160	+7	+4.5%

- 設備投資 セラコン用離型フィルム新機台、バイオ工場リニューアル、重合設備更新
- 配当は、一株あたり 40 円 (予想)

17

2024年度の業績見通しでございます。包装用フィルム、セラコン用離型フィルム、電子材料用途の機能樹脂の需要回復、2023年度中央から実現してきている価格転嫁効果の年間での寄与、要改善事業への対策を進めることにより、営業利益は170億円を見込みます。

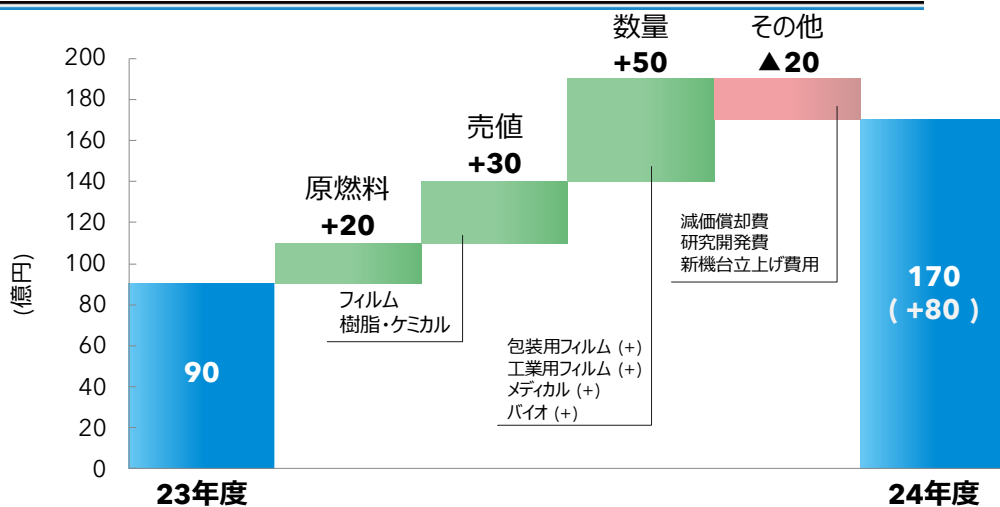
本来、当社の営業利益水準としては200億円以上が必要と考えており、まだまだ十分ではないという認識です。減価償却費が37億円増える見通しのため、今後は、この減価償却費の増分を補って200億円以上の営業利益を出していかなければいけないと認識しています。

営業利益が大きく増える一方、親会社株主に帰属する当期純利益は微増に留まる見通しです。営業外損益で、2023年度に改善した部分がマイナスに寄与することや、投資有価証券売却益がなくなることが要因です。

配当については、今後の収益の回復を見込み、40円を予想しています。

営業利益の増減要因

TOYOBO



	23年度	24年度
為替レート (円/US\$)	145	145
国産ナフサ (千円/kl)	69	70

18

2024年度の営業利益の増減要因分析です。2023年度の分析で申し上げた通り、2024年度は、国産ナフサ価格はやや上昇傾向ですが、燃料価格安定化の効果が出てくるため、原燃料因はプラスとなる見通しです。

売値因は、フィルムをはじめとして、価格転嫁努力が実現し、年間で寄与してくる見通しです。数量因は、包装用フィルムを中心に回復を見込んでおります。その他因は、減価償却費が増える見通しです。加えて、2024年度は、セラコン用離型フィルムの新設備が完成し、試運転が始まります。その立上げ費用を、工業用フィルムで計上する予定です。

以上により、営業利益は増えますが、170億円にとどまると認識しております。

セグメント別見通し

TOYOBO

(億円)

	売上高		営業利益		
	23年度 実績	24年度 見通し	23年度 実績	24年度 見通し	増減
フィルム	1,565	1,700	27	73	+46
ライフサイエンス	346	380	44	37	▲7
環境・機能材	1,153	1,200	47	80	+33
機能繊維・商事	957	950	▲10	0	+10
不動産・その他	122	120	30	25	▲5
消去・全社	-	-	▲48	▲45	+3
合計	4,143	4,350	90	170	+80

19

セグメント別の見通しでございます。

フィルムは、包装用フィルムの改善を見込んでおります。

ライフサイエンスは、設備投資を進めてきた、バイオ関係、医用膜関係の新工場が立ち上がります。その立上げ費用と、一部減価償却費の増加により、減益となる見通しです。

環境・機能材は、機能樹脂関係の数量の回復、採算性の改善、および、不織布マテリアルへの対策の効果を見込んでおります。

機能繊維・商事は、エアバッグ用基布の赤字幅の更なる縮小を見込んでおり、衣料繊維は、円安の中で中東向けトープ地が堅調です。以上、それぞれのセグメントにおいて改善の要素があるという見通しになります。

未来をつくるために稼ぐ力を取り戻す

1. 安全・防災、品質、コンプライアンスの徹底（大前提）
2. 価値に見合ったプライシングの徹底
3. 要改善事業（低収益・赤字セグメント）対策
4. 成長投資の確実な回収と新の創出
5. 投資、経費の絞り込み、コストダウン

最後に、2024年度の経営方針でございます。2023年度と同じ内容ですが、2023年度に達成できなかった、「稼ぐ力を取り戻す」を必ず達成すべく、5つのアクションを進めてまいります。

1番は、大前提としての信頼性に関わるもの。2番は、バリューベースのプライシングをしていくこと、3番は、要改善事業への対策を打っていくことです。それから、4番の成長投資については、設備投資に合わせて、設立2年目となる東洋紡エムシー（株）の効果を発現させることとなります。

一方、5番については、バランスシートが悪化している中で、総資産を圧縮することと、この2年で増えてきている固定費を圧縮することを、全社課題として進めてまいります。

セグメント別のアクションについては、28ページに記載していますのでご覧ください。

今年度、必ずこの利益目標を達成し、2025年以降につなげる所存でございます。

私からの説明は以上です。ご清聴ありがとうございました。

本資料中の見通しや目標等、将来に関する記載事項は、本資料作成時点において入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績等は、今後の種々の要因によって、本資料の記載事項と異なる場合がありますことをご了承ください。

東洋紡株式会社

All Rights Reserved

TOYOBO
Beyond Horizons

© TOYOBO CO., LTD. All rights reserved.

補足

セグメント別情報

TOYOBO

(億円)

売上高	22 年度					23 年度				
	1Q	2Q	3Q	4Q	通期	1Q	2Q	3Q	4Q	通期
フィルム	392	352	356	361	1,461	390	391	393	391	1,565
ライフサイエンス	87	106	100	88	381	81	84	87	93	346
環境・機能材	279	278	267	283	1,108	250	276	336	292	1,153
機能繊維・商事	222	232	223	248	924	222	235	232	268	957
不動産・その他	31	33	30	32	126	28	38	30	26	122
消去・全社	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	1,010	1,001	976	1,012	3,999	971	1,024	1,079	1,069	4,143

営業利益	22 年度					23 年度				
	1Q	2Q	3Q	4Q	通期	1Q	2Q	3Q	4Q	通期
フィルム	25	▲ 0	▲ 4	▲ 4	16	12	2	1	12	27
ライフサイエンス	21	33	26	12	92	14	10	11	10	44
環境・機能材	9	12	8	11	40	▲ 7	10	26	17	47
機能繊維・商事	▲ 4	▲ 7	▲ 7	▲ 7	▲ 25	▲ 7	▲ 1	▲ 7	5	▲ 10
不動産・その他	3	6	7	5	22	4	10	7	9	30
消去・全社	▲ 9	▲ 11	▲ 13	▲ 13	▲ 45	▲ 17	▲ 7	▲ 12	▲ 12	▲ 48
合計	46	33	17	5	101	▲ 1	24	26	40	90

主な指標の推移

TOYOBO

(億円)

	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
	実績						見通し
売上高	3,367	3,396	3,374	3,757	3,999	4,143	4,350
営業利益	217	228	267	284	101	90	170
(率)	6.5%	6.7%	7.9%	7.6%	2.5%	2.2%	3.9%
EBITDA ^{*1}	375	398	458	485	291	288	405
EPS (円)	▲ 6.8	155.1	47.3	144.8	▲ 7.4	27.9	29.5
ROE ^{*2}	-	7.8%	2.3%	6.8%	-	1.3%	-
ROIC ^{*3}	4.4%	4.5%	5.0%	5.1%	1.7%	1.3%	-
減価償却費	158	170	191	201	190	198	235
設備投資	255	364	233	336	427	616	500
研究開発費	110	117	127	138	141	153	160
有利子負債	1,648	1,751	1,870	1,912	2,294	2,492	-
D/ELシオ	0.93	0.98	1.01	0.98	1.21	1.26	-
Net Debt / EBITDA倍率 ^{*4}	3.8	3.8	3.3	3.4	5.8	7.5	-

*1 営業利益 + 減価償却費 (のれんを含む)

*2 当期純利益 ÷ 期首・期末平均自己資本

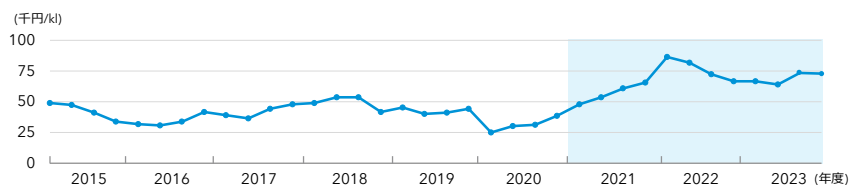
*3 NOPAT ÷ (有利子負債 + 純資産)

*4 (有利子負債 - 現金) <期末> / EBITDA

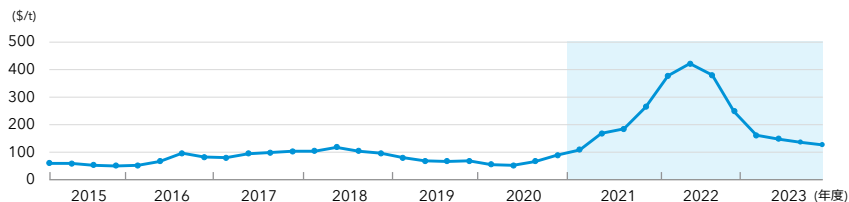
原燃料価格高騰に対する価格改定

TOYOBO

■ 国産ナフサ価格



■ 石炭価格 (豪州一般炭市況価格)



■ 当社「原燃料」「売値」影響 (前年度比増減)

	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
原燃料 (A)	+71	+41	▲ 37	▲ 45	+29	+56	▲ 112	▲ 170	▲ 10	+20
売値 (B)	▲ 61	▲ 25	+16	+12	▲ 5	▲ 38	+47	+119	+44	+30
スプレッド (A+B)	+10	+16	▲ 21	▲ 33	+24	+18	▲ 65	▲ 51	+34	+50

(億円)

26

フィルム市場の回復について

TOYOBO

包装用フィルム

市場

- ・2023年度 OPP*フィルム出荷実績は下期にプラス転換
- ・2024年度 在庫調整を終え、緩やかな回復を予想

2024年度

- ・OPPフィルム新機台の本格寄与
- 生産能力：年間約 2 万トン
- 強み：超高剛性OPPフィルムによるモノマテリアル化

*二軸延伸ポリプロピレン

セラコン用離型フィルム

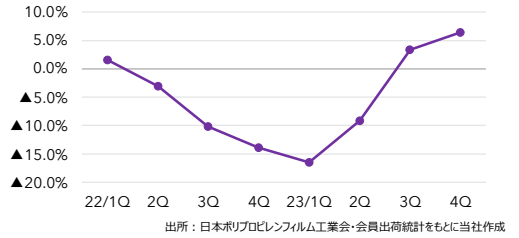
市場

- ・2023年度 MLCC輸出実績は下期にプラス転換
- ・2024年度 後半からの回復を予想

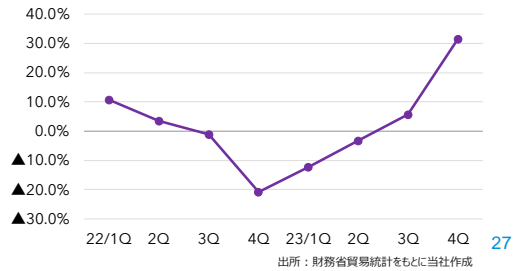
2024年度

- ・市場回復に合わせ、顧客の増産体制に対応
- ・セラコン用離型フィルム新機台
- 生産能力：年間約 2 万トン
- 強み：インライン・オフラインコートの高エンド製品供給技術

食品包装用OPPフィルム国内市場 出荷実績 (YOY増減率)



日本からのMLCC輸出実績 (YOY増減率)



事業別 主なアクション (2024年度)

TOYOBO

セグメント	アクション
フィルム	<p>■ 包装用フィルムの収益性改善と工業用フィルムの更なる拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・包装用フィルム：一層の価格改定。新機台・新製品の本格立上げ、生産体制見直し ・セラコン用離型フィルム：市況回復に合わせ、顧客の増産体制に対応。新機台立上げ ・液晶偏光子保護フィルム：顧客の増産体制に対応
ライフサイエンス	<p>■ 新ラインの確実な立上げと成長策実行</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バイオ：生化学診断薬用原料酵素拡販。リニューアル増産設備立上げ ・メディカル：人工腎臓用中空糸膜の一貫生産工場立上げ 急性血液浄化膜、プロセス膜、バイオマテリアルへの展開 ・医薬品製造受託：GMP体制維持。新規受注
環境・機能材	<p>■ 東洋紡エムシー (株)：成長策の成果実現、不織布マテリアルの収益性改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境ソリューション：LIBS向けVOC回収装置の海外販売拡大。FO・BC膜の新規案件獲得 ・工業用接着剤：環境対応型拡販、海外拡販、新ライン立上げ ・エンジニアリングプラスチック：品質保証体制の確立。数量拡大と一層の価格改定 ・不織布マテリアル：国内生産体制の見直し、外部生産委託の拡大、開発品の強化・推進
機能繊維・商事	<p>■ 要改善事業の対策実行</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エアバッグ用基布：収益改善のロードマップ実行 ・衣料繊維：資産効率改善の追求

TOYOBO
Beyond Horizons

© TOYOBO CO., LTD. All rights reserved.